



2019. 3. 1

日ざしは春、土手の野草が咲きだしました。チョウやハチが花を訪れ、谷のウグイスがたどたどしい声で鳴いています。「三寒四温」「春に三日の晴れなし」というほど不安定な天気が続いていますが日に日に暖かくなり、オタマジャクシやメダカで水辺がにぎわうのももうすぐです。



野草 名前の由来・・・道ばたに咲くかわいい野草たち。名前を覚えてくださいね。



カントウタンポポ
(関東蒲公英)
花を鼓に見立て「タン・ポンポン」の音まねから



ヘビイチゴ
(蛇苺)
実が食用にならずヘビが食べる。ヘビがいそごうな所にある。



ケキツネノボタン
(毛狐の牡丹)
毒があり、葉が牡丹に似る「キツネノボタン」似て毛がある。



ホトケノザ
(仏の座)
葉は対生で仏さまがおすわりになる蓮座に似ている。



ヒメオドリコソウ
(姫踊子草)
花が笠をかぶった踊り子に似る「オドリコソウ」より小さい。



ノゲシ (野芥子)
野にはえ、葉がケシの葉に似ている。



キュウリグサ (胡瓜草)
葉をもむとキュウリの葉の匂いがする。



ナスナ (薺)
なでたいほどかわいい花。なで菜に由来。



タネツケバナ (種漬花)
種もみを水に漬ける頃に花盛りとなる。



カラスノエンドウ
(烏野豌豆)
野に生えるエンドウ。果実が熟すと真っ黒になる。

<季節メモ> ニホンアカガエル

厳しい寒さを越え、春めいてくるとアカガエルの産卵が始まります。冬眠を中断して山を下り、暖かな水たまりを見つけて体を休め、夜になると抱接して産卵。再び山へ戻って冬眠の続きをします。ヘビなどの天敵が冬眠から目覚める前に産卵、他のカエルより一足早くオタマジャクシになれば、餌も水辺も一人じめできます。自然を生き抜く知恵ですね。

写真・編集：晝間